

◀ S · E · L · D · A · A ▶ No.4

昭和60年11月1日 発行

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室 気付

Sophia English Language Department Alumni Association

S · E · L · D · A · A PARTY へのお誘い

秋になりました。パーティの季節になりました。我ら英語学科同窓会も、年に一度の集いの場を計画しています。名付けて、“SELDAA パーティ” ……。

昨年“ファミリー・パーティ”という名で開かれた全会員の親睦会も、今年で2回目を迎えます。“英語学科の卒業生はみんなファミリーなのだ”という主旨で始まったこのパーティ、FAMILY (家庭) をまだ持っていない独身の皆さんもぜひ参加していただきたいので、今年は呼び方をちょっと変えました。もちろんFAMILY (家族) での参加も大歓迎です。

「知っている顔がいなかったらどうしよう？」なんて、消極的だと思いませんか。もっと積極的に、“知っている顔”を集めてください。どうかみんなに声をかけて、この場でクラス会を開いてください。SELDAAはそのお手伝いがしたいのです。

この英語学科同窓会も生まれてはや2年、あまり欲張らずにすこしづつ充実させていこうと思っているのですが、“SELDAA パーティ”は、いわばその出発点です。世界中に3,500人の人々が、同じ「上智大学英語学科卒業生」という立場でがんばっているのです。

11月30日には、ぜひいらっしゃってください。きっと新しい事にめぐりあえますよ。

日時 昭和60年11月30日(土)午後4時～6時

会場 上智会館3階第1会議室

会費 2,000円(ご家族同伴の方は3,000円)

なお、準備の都合上、11月15日までに同封の葉書にてご返事をいただきますようお願い申し上げます。

—第1回野口記念懸賞論文に24人応募—

前号会報にてご案内申し上げました通り、野口基金運営委員会では第1回目の活動として、英語学科在学生より懸賞論文を募集することになり、本年5月初めより在学生に募集を呼びかけ、6月15日(土)に応募を締め切りましたところ、言語学、国際関係論、人文科学の3分野で、1年生から4年生まで合計24人と予想以上の応募がございました。分野別、学年別応募状況は次の通りです。

言語学：計9人(2年生：1人、3年生：3人、4年生：5人)

国際関係論：計8人(1年生：1人、2年生：4人、3年生：2人、4年生：1人)

人文科学：計7人(2年生：1人、3年生：4人、4年生：2人)

論文の提出切は10月5日(土)となっており、実際の提出が何人になるかは分かりませんが、9月21日現在既に1~2人の学生が論文を完成させているとの情報を入手しており、多数の学生が実際に提出してくれるものと期待しております。

一方、提出される論文を審査、選考する選考委員につきましては、野口基金運営委員会にて協議の結果、次の通り決定致しました。

〔第1回野口記念懸賞論文選考委員〕

委員長：小山信夫教授(英語学科長)

副委員長：J. Nissel教授(前英語学科長)

委員：松尾弼之教授(昭和39年卒) - 国際関係論チーフ

草深 武助教授(昭和42年卒) - 人文科学チーフ

吉田研作講師(昭和47年卒) - 言語学チーフ

以上5名の選考委員の方に、11月上旬迄に審査、選考していただきますが、今回テーマが自由ということで、各分野ともテーマが多岐に渡っておりますので、各論文につき各分野のチーフの選考委員より必要に応じ学内教員及び卒業生の中で専門分野の方にご意見を伺い、決定する予定にしております。もし卒業生の方で、選考をお手伝いいただける方がいらっしゃいましたら、吉田研作上智大学講師(Tel: 03-238-3723)までご連絡ください。

本懸賞論文の選考結果の発表、及び賞金授与式は11月30日(土)に予定しておりますSELDAAパーティー(別途ご案内の通り)にて行なう予定です。

尚、会報第3号にて、本会報に入賞論文のAbstractを掲載すると同時に入賞論文集の販売に関する詳細を掲載する旨ご案内致しましたが、本原稿締切りまでに選考結果が判明致しませんでしたので、共に次号に掲載致しますのでご了承願います。

また、前号会報にてもお願い致しましたが、第2回目以降、本基金の趣旨に添った運営方針につき、ご意見、アイデア等ございます方は、積極的に英語学科事務室野口基金運営委員会宛ご連絡いただきます様お願い申し上げます。

松尾弼之教授講演会開かれる

去る7月13日土曜日、上智会館第6会議室に於て、英語学科同窓会第2回講演会が開催された。前回(昨年)のマックニー神父様の名誉教授就任記念講演会に引き続き、今回は英語学科の同窓生でもあり、現在同学科で教鞭をとっておられる松尾弼之教授に講演をお願いした。

松尾先生は、ワシントンの日本大使館での3年間の勤務を終えてお帰りになったばかりであり、「日米貿易摩擦の文化的側面」と題して行われた講演はタイムリーで興味深く、参加者全員、熱心に聞き入っていた。

講演会後の茶話会は、特に松尾先生の学生時代の同級生も何人か参加されていたこともあって、くつろいだ雰囲気の中に約1時間にわたって進められた。

松尾先生の講演会に出席して

59年卒 井上由美子

松尾先生の渡米以来、実に3年ぶりの再会だったが、本当に懐かしさでいっぱいだった。あの語り口も、例の表情も昔と変わらず、思わず3年の歳月を忘れて学生時代に戻ったような気がした。

今回の話の主旨は、今の日米関係において日本は何よりもまず米国の一般大衆の心をつかむべきだ、ということだった。ワシントンの現場の生々しい声を聞き、渦中に身を置いてきた先生だけに、また違った角度から日米関係を考えるヒントを与えてくれたように思う。

今や日本は大きくなりすぎた。米国には邪魔な存在であるかもしれない。同盟国とはいえ米国にとって大したメリットがなければ、日本もいずれはどこかの国の二の舞にならぬとも限らない。中曽根さんは外交家というよりは社交家という感じで期待は持てそうにない。私達が思っているほど米国人は日本をわかってはくれないし、また日本も同様だ。もって民衆レベルでの本音を分かり合うこと、それが日米両国に必要なことだと思う。

最後に、松尾先生、楽しいひとときをありがとうございました。またの再会を心待ちにしています。

幹事会報告

今年春に発行された会報第3号での幹事会報告の後、1回の幹事会が開催され、下記の議題が討議、承認されましたので、ご報告いたします。

◆昭和60年度第2回定例幹事会

昭和60年9月21日開催

1. 常任委員欠員補充承認の件
安田成喜常任委員の辞任（転勤のため）にともない、新たに下記の1名が鈴木会長より常任委員に指名され、承認された。（敬称略） 59年卒 漆原 朗子
2. 野口基金運営委員会報告
込山運営委員より、第1回野口記念懸賞論文募集についての現況報告があった。
（くわしくは、この会報P2をご覧ください。）
3. SELDAAパーティについて
鈴木博文事務局長より、11月30日（土）に開催予定のSELDAAパーティの内容について、説明があった。
（くわしくは、この会報P1をご覧ください。）
4. 幹事の改選について
鈴木博文事務局長より、来年3月に行われる各年次2名の幹事の改選について説明があった。
（くわしくは、下をご覧ください。）

以上

幹事(各年次2名)の改選について

事務局長 鈴木博文(49年卒)

この英語学科同窓会は昭和58年12月3日の設立以来、各年次2名ずつ選任された幹事によって構成される幹事会の席上で、予算、決算をはじめとする案件を審議しておりますが、同窓会会則第10条第2項によれば、幹事の任期は4月1日から翌々年3月31日までの2年間となっております。来年(昭和61年)3月が、ちょうど幹事の改選期となります。

本会の会員は日本全国、あるいは世界各地に在住されているため、統一選挙のような方法での改選はきわめて困難であろうと思われれます。従って、常任委員会および事務局では次のような方法によって、幹事の改選を行う事とし、第2回定例幹事会の席上で各幹事の皆さんにご説明いたしました。

1. 各年次の幹事に立候補なさる方は、昭和61年1月末日までに下記の同窓会事務局宛に、文書でお知らせください。
2. 立候補者のいない年次の幹事の選任は現幹事に一任することとし、事務局からその旨を現幹事に通知いたします。
3. 立候補者多数の年次の幹事の選任は、現幹事が選挙管理人となって、往復葉書などによる投票を行ってください。その際の費用は本会予算（予備費）でまかないます。
4. 幹事の選任に関する年次は、入学年度を基準としてください。（同窓会細則第3号「幹事の選出に関する年次規定」による。）

各年次の幹事は、同窓会と会員とを結ぶパイプ役です。SELDAAのより一層の発展と充実のため、幹事への立候補など、会員の皆さんからの積極的なアプローチを期待しております。

上智大学英语学科同窓会事務局 〒102 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学英语学科事務室気付

参考：各年次の現幹事名簿 任期：昭和58年12月3日～昭和61年3月31日

32年 森 哲夫、草野 正策	33年 山本 哲生、渡辺 宏	34年 井篁 重慶、小林 康司
35年 草薙 裕、神谷 尚佳	36年 筒井 義人、中村 輝久	37年 長谷川幹夫、犬飼 研介
38年 石山 輝夫、長谷川真弓	39年 井波 明夫、関口 祥子	40年 石川 雅弥、藤井 桂子
41年 今村 博展、鐘ヶ江弓子	42年 小島 二宏、丸山 正子	43年 鈴木 正秀、篠崎多由美
44年 小笹征太郎、深田 博子	45年 遠藤 雄司、菊池 良江	46年 田岡 信雄、高垣 千恵
47年 植村 和志、九鬼 悦子	48年 笠島 準一、河野 ナナ	49年 高松 仁、児島 咲子
50年 川俣 善雄、安藤 裕子	51年 小野 亮輔、石川 真弓	52年 柳瀬 和明、石井 美保
53年 西野 哲、坂口 育子	54年 鶴浦 裕、岡田 敦子	55年 内村 直友、欠 員
56年 金子 茂雄、清水さゆり	57年 宮坂 聖一、坪井 美穂	58年 松本 曜、坂上嘉津子
59年 中村 寛、西村 香	60年 陶山 仁、道明 磨美	

常任委員会からのお知らせ

－会費納入のお願い－

昭和60年度予算では、700人の方から会費を納入いただき運営する計画を立てておりますが、9月20日現在未だ660人の方からしか会費の納入をしていただいております。会費を未だお納めでない方は、同封の振込用紙にて早急にお振込みの程お願い申し上げます。

入会金：1000円 年会費：2000円 合計：3000円

（できれば、会費は3年分、入会金・会費合計7000円お納め願います。）

尚、何年度分会費をお納めになられたかご不明の方は、会計担当常任委員込山（TEL：03-473-3304）迄ご照会ください。

また、手続きの関係上、既に会費をご納入いただいた方にも振込用紙を同封しておりますので悪しからずご了承ください。

メッセージ

中沢 栄一 (35年卒)

卒業後25年目を迎え銀祝のパーティで久しぶりに同窓の仲間が一堂に会した。

社会に出て25年の歳月を経たにもかかわらず、皆25年前そのものの顔をしていた。もっとも少し白髪が混った顔にはなっていたが……。小生も今は旅行社に籍をおき特にトルコ、シリア、ヨルダン等特殊な地域への旅を創り、この地域への旅を希望している方々のお手伝いをしている。サービス業の難しさを愚痴りながら毎日を忙がしく過している。所属している大船カトリック教会では「聖地巡礼の旅」を企画して、主任司祭の郷里スペインのバスクを旅程にくみ込んで希望者を募っている。地域の教会を回りながら上智出身者に出会うと何か気持が和み、通じ合うものがあるのはやはりソフィア・マンとしての同窓意識のなせるわざか？。特に英語科出身となると思いはひとしおである。

家庭では高校生2人、中学生1人、の娘3人に囲まれて、父親として、又1人の男性としての威厳を如何に保つか汲々としている今頃である。

酒井 良子 (49年卒)

教職について、いつの間にか10年が過ぎました。「1年もつかな？」と言われていた私が、10年も教壇に立っていられたのも、同僚の先生方の大きな支えと、生徒達の優しさのおかげと感謝しています。(実際、私はこの10年「教える」ことより「教わる」ことの方が多かったのですから……。) 振返ると、教師になりたての頃は、何もわからず、ただ「若さ」だけで、突走っていたようです。今、ようやく、まわりが見え、自分の仕事ができるようになってきた、というのが実感です。色々な意味で、子ども達の成長の助けとなる働きができれば——と、今日も汗とチョークにまみれています。

国際交流基金(THE JAPAN FOUNDATION)

石田 隆司 (54年卒)

日本は海外からの情報はどん欲に吸収するのに、自らのことを理解してもらうために十分な努力を怠っていません。いわゆる「発信能力」の不足のことです。また豊富な海外の情報といっても、日本はどれだけ、例えばアジア、アフリカの人々の生活や文化を理解するに足りる情報を得ているだろうかという疑問も残ります。

国際交流基金はこのような状況に対処するため文化交流の専門機関として設立された外務省所管の政府関係特殊法人です。事業は海外における日本紹介と日本での外国文化紹介とに大別され、日本研究促進、日本語普及、人物交流、スポーツ交流、学術・芸術交流など広範な分野にわたっています。昭和47年の誕生ですから歴史は浅いのですが、JAPAN FOUNDATIONの名は海外ではかなり知られているはず(?)です。国内向け事業では、これまで日本初の中国・京劇公演、アジアやアフリカの映画祭、生命科学シンポジウムなどが大規模なもので、他の文化交流団体との日常的な協体制度も敷いています。

私自身は視聴覚部を経て、現在、人物交流部受入課で来日する日本研究者、視察グループやいわゆる文化人の方々のお世話をしております。秋は来日のラッシュアワーといったところです。基金は130人程の職場ですが、ソフィアンは8名います。英語科出身では、萩野崇一郎氏(47年卒)が日本研究課で、内田裕氏(53年卒)がバンコック事務所でご活躍中です。また旧姓山崎恵子氏(53年卒)の夫君の忍田幸男氏が日本語課にいらっしゃいます。

さてSELDAの名簿を拝見していますと随分と多くの方々が何らかの形で国際的なお仕事に従事されているようですが、この場をお借りしてお願いがあります。皆様のそれぞれのお仕事の経験、個人的体験などから国際交流ないし文化交流についてのご意見をお聞かせ願えればと思います。国際・文化交流という概念そのものの再考を含め、いろいろな生活・職場環境にいらっしゃる皆様のご意見は基金が事業を進める上で非常に参考になると確信しています。ご連絡は、下記にいただければ幸いです。

〒102 東京都千代田区紀尾井町3-6 パークビル内
国際交流基金 人物交流部 受入課 石田隆司 TEL.03-263-4497

昭和59年卒(80-52b クラス) 同窓会

去る7月13日(土)、6:00PMより、赤坂「リトル・パイレーツ」にて、80-52bクラスの同窓会を催しました。殆んどが社会人となって2年目、公私共に多忙な、そんなWeek Endにもかかわらず、最終的に20名が出席、48名のクラスで、東京近辺在住でない方も考慮に入れば、非常に高い出席率でした。

卒業以来約1年半ぶりの再会となりましたが、「大人っぽくなった!」「変わってない!」という声の入り交じる中、3時間にわたる集いは和気合々として、皆しばし学生時代に戻ったかのように盛り上がりました。ご結婚の決まった方、おめでたの方などもちらほら現れ始め、ここ2-3年はそういったニュースもラッシュだろうと、時の流れの早さを感じたものでした。

なお、席上、今回及び今後の通信費その他として、年額500円のクラス費を出席者全員にご賛同頂き、徴収させて頂きました。当然残余が出ますが、それらは今後の集まりの際の補助や、ご結婚に際してのクラスからの祝電等にあてられれば一と考えておりますので、下記口座までお振込み下されれば幸いです。

(何年分かまとめても結構です)

第一勧業銀行四谷支店 065-1384575 上智大学80-52b 漆原 朗子

以上、ご報告かたがた、よろしくお願い申し上げます。 茂木・根本・漆原